グリーン・エコプロジェクトをプレゼン

東ト協 志村環境委員長に聞く

国連エコドライブ会議に参加

東京都トラック協会（大髙一夫会長）は10月17日、国際連合本部（米国、ニューヨーク）で開催の「国連エコドライブカンファレンス」（主催＝国連WAFUNIF）に参加する。2006年に東ト協が全国に先駆けて地球温暖化対策としてスタートした「グリーン・エコプロジェクト（GEP）」の取り組みを東ト協環境部の遠藤啓二部長がプレゼンテーションする。東ト協でグリーン・エコプロジェクトを推進する環境委員会の志村正之委員長（副会長）に抱負を聞いた。（聞き手＝編集部）

世界が注目、GEP

―国連エコドライブカンファレンスの参加は、凄いことだと思います。

志村　ありがとうございます。東ト協は国内外を通じてさまざまなところで過去にもプレゼンターとして発信してきましたが、国連でのプレゼンは物流業界のみならず、日本の代表として東ト協が招かれることは、大変名誉なことと思っています。

―世界から東ト協が注目されます。

志村　地方のトラック協会が世界に発信する機会などないことです。世界から注目されるわけで、中小零細事業を占める我われにとっても大変嬉しく、今後の活力にもなると思います。これを機会に国民や荷主には、良い企業の努力と成果を充分に理解して頂き、そして東ト協会員がグリーン・エコプロジェクトに参加すれば、企業の経営戦略になると理解してほしいと思います。

さらにGEPへ期待高まる

―国連への参加でトラック業界におけるグリーン・エコプロジェクトへの期待がさらに高まるのでは？

志村　グリーン・エコプロジェクトを推進すると、さまざまな効果が現れて、環境のみでなく交通事故防止、管理者、ドライバーの意欲的な成果がみられ、経営改善が図られることなどで良い企業になっています。これを広くPRして、荷主に対して「グリーン購入ネットワーク」の契約ガイドラインが制定されたことなど、良い事業者の可視化を図り、さらに全面的に推進していきたいと思います。

―東京都との連携もあります。

志村　都が創設した「貨物輸送評価制度」で、グリーン・エコプロジェクト参加などの燃費に優れた事業者を都知事に認定して頂くことは、国内、また世界でも例のない画期的なことだと認識しています。

業界アピールをさらに強化

―荷主にもさらにアピールできます。

志村　国連エコドライブ会議でグリーン・エコプロジェクトを認めて頂いたことはトラック業界のみだけでなく、荷主はもちろん、都民にもアピールできると思います。アピールにはこれまで以上に力を注ぎます。

―東ト協以外でも普及しています。

志村　滋賀県、愛知県、大阪府、富山県、千葉県、埼玉県の各トラック協会でも同じネーミングでグリーン・エコプロジェクトが水平展開されています。これらがさらに広がっていけば、トラック業界としてのアピールが、荷主や国民にも理解されると思います。

―グリーン・エコプロジェクトの現況は？

志村　グリーン・エコプロジェクトの参加事業者は現在614社1万8164台、これをさらに増強します。さらに、荷主や都民に対して、トラック事業者からCO_2排出量の多いマイカーに浸透させれば、ロードのトップランナーになり、ひいては都民へのクリーンな業界としてのアプローチができます。さらに、精度の高いグリーン・エコプロジェクトデータを利用し、ITを駆使して参加者へレベルの高い情報提供をしていきたいと思います。

国連参加は業界のため

―環境委員長・副会長としての環境対策の抱負について。

志村　東ト協の事業推進は全国のトラック業界の手本になり、また、そうなるべく努力をしなければならないと思います。その上で、環境対策は非常に重要なファクターです。これは、業界が推進することで理解は深まると思います。

荷主には、グリーン・エコプロジェクトや東京都貨物輸送評価制度、グリーン購入ネットワーク登録などをしている事業者選択をしてもらえば、荷主とのWinWinの関係になると思います。

優秀な事務局とともにさらに推進したいと思います。国連エコドライブカンファレンスには業界のために参加してきます。

―成功を期待しています。ありがとうございました。

国連本部（ニューヨーク）

GEP

グリーン・エコプロジェクト活動のスローガンは、「環境CSR（企業の社会的責任）から進める経営改善」「未来のために私たちにできること」。

具体的な活動は、車両ごとに収集した燃費からデータベースを構築し、継続的なエコドライブ活動の推進・支援を行い、CO_2排出量の削減や燃費向上に伴うコスト削減、事故防止などに効果を発揮している。

また、経営者、管理者、ドライバー1人1人の環境意識が高まり、社会貢献・社会責任を主軸とした「環境CSR」を展開している。

さらに、レベルアップを目的に研修セミナーを定期的に開催し、ドライバーのモチベーションアップのための教育資料や環境関連資料を提供するなど、環境問題を受動的ではなく能動的に取り組むよう支援している。

国連エコドライブカンファレンス

10月17日開催

「国連エコドライブカンファレンス」の主催は、国連WAFUNIF。国連組織の世界148カ国のインターン・研修生を務めた人々による組織として、国連憲章第71条に準拠して設立された国連直属のNGO。エコドライブを「国連憲章に則った活動」であると捉え、その効果を「世界中の人々の関心を呼ぶよう、働きかける」としている。

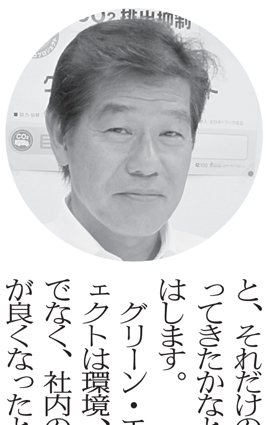
10月17日のエコドライブカンファレンスは、国連WAFUNIF認定企業のASUA（アスア／本社＝名古屋市、間地寛社長）がコーディネート。各国の国連大使、政府関係者、自動車関連団体などが出席、日本からも複数の団体が参加する。

カンファレンスでは、①車と社会②今のエコドライブ③これからのエコドライブ④次世代のエコドライブの4つのセッションでパネルディスカッション。政・学・産・ユーザーの各視点からプレゼンが行われる。また、エコドライブ憲章の合意を目的に「クロージングレセプション」も予定されている。

東ト協は、セッション「②今のエコドライブ」のスピーカーとして「グリーン・エコプロジェクト」について遠藤部長がプレゼンテーション。

「GEPの誇り胸に」

東ト協 遠藤環境部長



海外でのプレゼンテーションは初めてではないですが、国連には驚きました。ただ、どこでもグリーン・エコプロジェクトのプレゼンをすると、「取り組んでいる内容・手法が凄い」とか「やっていることが芯を捉えている」「確実にドライバー教育に繋がっている」と評価されます。

今回、そういう評価の中で、日本の自動車産業の中でのエコドライブということを前提にした時に、これが日本の代表のプレゼンだと言われると、それだけのものになってきたかなという思いはします。

グリーン・エコプロジェクトは環境、安全だけでなく、社内の人間関係が良くなったとか言われます。そんなことを聞くと嬉しいです。

私どもトラック業界がなければ、「重要なセクションは動かない」「世の中の流れはできないんだ」ということをきちんと言っていかないといけないと思います。

そうすれば、こぞって若い人たちがこの業界に入ってくるのではないかと理想を描いています。

世界中の人が見ているアメリカに乗り込んでいく。プレッシャーはありますが日本代表の使命を持つのは名誉なこと。グリーン・エコプロジェクトを皆で育てられることを誇りに思います。（談）

激励の言葉

各国への広がり期待

又野己知　関東運輸局局長

東京都トラック協会が2006年から独自に取り組んで来られた「グリーン・エコプロジェクト」が、このたび、国連のエコドライブカンファレンスの場でプレゼンテーションされる運びとなりましたことは、関東運輸局としても大変喜ばしく思います。

世界的に地球温暖化が進む中、「グリーン・エコプロジェクト」の活動は、先のCOP15で紹介された後、タイ、ドイツ、中国でも発信されてきましたが、今回、国連の場において紹介されることによって、さらに世界に広くアピールされることになります。

国土交通省においても環境対策を強力に推進するため、地球環境に優しいCNGやHVのトラックなど低公害車導入に取り組んでいます。

この度のプレゼンテーションによって、貴協会が取り組んで来られた「グリーン・エコプロジェクト」が、世界各国に広く浸透していくことを期待しています。

世界に共有される契機に

長谷川明　東京都環境局長

世界では、新興国を中心に経済成長に伴い、自動車が増え続けており、自動車から排出されるCO_2の削減は、世界共通の重要な課題です。

こうした中、都は世界に先駆けた取組として、エコドライブや燃費管理に努力する貨物運送事業者を実燃費により三つ星で評価する制度を2012年度から実施しています。この制度の後ろ盾となっているのが東京都トラック協会のGEPであり、蓄積された42万件に及ぶ膨大な燃費データは評価指標の設定に活用されています。

GEPは、環境負荷の低減のみならず、交通事故の軽減にも寄与する実効性のある取組です。この取組が今回のWAFUNIFの会議を通じて、世界中のドライバーに共有される契機となることを期待しています。

東京都

14年度「貨物輸送評価制度」

GEP参加企業を高評価

環境に優れた192社を格付け

トラック運送事業者のCO_2削減努力を分りやすく評価する制度として、昨年度から東京都が本格実施を始めた「貨物輸送評価制度」。その2014年度評価事業者を称える認定発表式が去る7月3日、都内のザ・ペニンシュラ東京において、東京都トラック協会グリーン・エコプロジェクト（GEP）主催で開催された。同評価制度は、毎年度申請の事業者に対してのみ都が評価を行い、都内に貨物を運送するトラック運送事業者（緑・黒ナンバー事業者）を対象にしている。今回の申請事業者数は前回に比べて25・8％増の195社となり、評価された事業者数は28・9％増の192社となった。そのうちの96・4％に当たる185社が、東ト協が推進するGEPの参加事業者だった。

東京都が実施する「貨物輸送評価制度」は、12年度に試行され、13年度から本格実施された。事業者からの関心度は高く、申請事業者は昨年度が155事業者だったのに対し、今年度は約26％増の195社になり、回を重ねるごとに増えている。

また、自治体がトラック運送会社を燃費で格付けするのは、世界でも東京都だけだ。CO_2削減の取り組みを、実走行燃費で評価し、その結果を星の数で表されることから、トラック版ミシュランガイドと呼ばれてきた。都ではホームページなどを通じて評価した事業者を公表しており、荷主や環境問題に関心の高い消費者に対して、分りやすくアピールしている。

14年度評価取得事業者の内訳は、「3ツ星」が15社、「2ツ星」が72社、「1ツ星」が105社だった。これら評価された事業者192社のうち189社が東ト協会員で、ほか埼ト協会員が2社、茨ト協会員が1社だった。

GEPについて東ト協の大髙一夫会長は「現在、611社（8月末現在614社）、約1万8000台（同1万8164台）が参加している。さらに一昨年に滋賀県トラック協会、昨年からは愛知、大阪、富山、埼玉、千葉のト協で事業として広がった」と述べた。

また、10月にニューヨーク国連本部で「国連エコドライブカンファレンス」からGEP発表の要請がきていることを明かし、これらの機会をとらえ一層の普及に意欲をみせた。

2014年度　東京都貨物輸送評価制度　評価取得事業者

評価区分	事業者名	代表者名
☆☆☆	エスエイロジテム	斉藤　彰悟
☆☆☆	西町運送	岩邉　洽子
☆☆☆	大出運輸	山下　義尚
☆☆☆	ナガオ	緒方　伸二
☆☆☆	柳沢運輸	柳沢　博之
☆☆☆	ＮＴＳロジ	笠原　昭久
☆☆☆	三急運輸	田代　昌明
☆☆☆	東京三栄運送	森末　義和
☆☆☆	金城運輸	金城　永三
☆☆☆	圏央ロジ	橋本　龍太郎
☆☆☆	東配	熊井　禎臣
☆☆☆	武井物流	武井　一憲
☆☆☆	都築運輸	都築　徹蔵
☆☆☆	加賀運送	加賀　式美
☆☆☆	茨城流通サービス	小倉　邦義
☆☆	柴又運輸	鈴木　正博
☆☆	丸和運送	寅谷　和男
☆☆	サクラ運送	伊藤　光浩
☆☆	金剛運輸	金剛寺　忠和
☆☆	アルプス運送	宮越　正也
☆☆	杉田運送	杉田　智
☆☆	京南運送	吉田　智重
☆☆	トラスト・ウィン	星　惠子
☆☆	大塚組	大塚　治夫
☆☆	三進	田口　進
☆☆	亀戸運送	永嶋　信一
☆☆	東洋運輸	中島　昭治
☆☆	星運輸	星　信久
☆☆	ヒサゴサービス	砂崎　亨
☆☆	丸昭運輸	渡邊　和廣
☆☆	大澤組	加藤　知朗
☆☆	コールド流通システム	山口　惠子
☆☆	墨東企業運輸	追川　晃
☆☆	ナカフジ運送	中島　妙子
☆☆	ハヤシ配送サービス	林　秀行
☆☆	川口商事	川口　英樹
☆☆	光洋運輸	福沢　優
☆☆	東京商運	竹中　進
☆☆	東京食料運輸	阿部　行信
☆☆	すずか梱包運輸	鈴木　貢
☆☆	稲垣運輸	稲垣　久義
☆☆	京王運輸	帆足　信夫
☆☆	松雄運送	松本　雄治
☆☆	金子運送	金子　紀士男
☆☆	若林運送	若林　権太郎
☆☆	武蔵野運送	清本　秋男
☆☆	明和運輸	宇田川　英彦
☆☆	七福運送	鈴木　祥太
☆☆	浅井	浅井　隆
☆☆	昭和の森エリアサービス	田村　春生
☆☆	渋谷運輸サービス	三杉　恭一
☆☆	用賀運送	石川　和夫
☆☆	宝運送	塚谷　卓二
☆☆	渡邉倉庫運送	渡邉　庄二
☆☆	プライム物流	下川　悟
☆☆	上昇運輸	上野　巨志
☆☆	彦新運輸	彦田　敬輔
☆☆	吉田運輸	吉田　清子
☆☆	大津運送	大津　敏一
☆☆	大昌運輸	山本　明徹
☆☆	竹鼻運送	牧野　英雄
☆☆	村松機工運輸	海老原　宏
☆☆	アサヒエンタープライズ	町田　眞二
☆☆	エスティーシステム	鈴木　憲興
☆☆	桐生運輸	桐生　和幸
☆☆	ＳＢＳロジコム	鎌田　正彦
☆☆	日盛運輸	細井　幸一
☆☆	上野運送	伏見　健次
☆☆	丸喜運輸	和地　義嗣
☆☆	大塚運送	大塚　仁志
☆☆	東紅流通センター	髙橋　猛彦
☆☆	結城運輸倉庫	結城　幸彦
☆☆	藤倉運輸	藤倉　泰徳
☆☆	林運輸	林　謙次
☆☆	関口運輸	関口　心太
☆☆	多摩八光運輸	嶋田　哲男
☆☆	東栄運送	東井　忠弘
☆☆	羽田運送店	羽田　三根夫
☆☆	三つ葉運輸	村上　雅英
☆☆	関東急行運輸	島田　恒彦
☆☆	富士興業	奥山　光治
☆☆	イノウ運輸	稲生　道明
☆☆	東亜物流	森本　勝也
☆☆	江商運輸	江森　東
☆☆	協同運輸	鳥ノ海　学
☆☆	大剛運輸	鴨山　宣夫
☆☆	日本興運	原　玲子
☆	古川商事運輸	古川　丞
☆	都北運輸	金柱　誠司
☆	東洋興業	横沢　喜一郎
☆	エイチライン	星　信久
☆	五月運輸	田原　利明
☆	エム・エスサービス	植益　正芳
☆	新寿堂運輸	國澤　大介
☆	村山運輸	村山　浩一
☆	国分	國分 正道
☆	東幸運輸	小川　英二
☆	三星・運送	鶴田　一文
☆	成光運輸	飯沢　宗光
☆	北田運送	北田　真三郎
☆	オータカ	大髙　一義
☆	東邦運輸	中島　秀治
☆	竹内運輸工業	竹内　政司
☆	上野運輸	上野　紀一
☆	小作物産	小作　豊
☆	三村運送	三村　偉一郎
☆	鈴直運輸	多賀谷　正秀
☆	野辺運輸	佐藤　剛
☆	共立ラインサービス	南里　徹郎
☆	鈴直運送	鈴木　健之
☆	小山運送	橋本　敏夫
☆	三興運輸	小沢　庄一
☆	みゆき運輸	古賀　敬宏
☆	アシストライン	福本　篤人
☆	金原運送店	金原　實
☆	三港運輸	日下　栄作
☆	やまと東	楯列　和子
☆	ロジトライ関東	岡部　雅志
☆	自由ヶ丘運送	土屋　秀明
☆	入船物流システム	半田　一惠
☆	新聞輸送	田中　敏之
☆	東京ロジステック小林徳市運送	小林　秀男
☆	東京荷役管理	阿部　行信
☆	天野運送	天野　智義
☆	京葉青和	青木　茂
☆	丸正運輸	宇野　数雄
☆	佐藤商運	佐藤　敏弘
☆	丸大運輸	大山　宏
☆	丸勝運輸	清水　敦史
☆	日和運輸倉庫	佐藤　和子
☆	丸嘉運輸倉庫	前川　哲弥
☆	寿運送	石井　秀男
☆	興真運送	篠崎　眞
☆	新宿運輸商事	横山　竜介
☆	マルヤマサービス	菅　眞知
☆	小島運送	小島　勝弘
☆	新宿貨物運送	古屋　芳彦
☆	古屋運送	古屋　宰
☆	篠崎運送店	篠崎　義春
☆	三和運輸	早川　恒子
☆	横山運送	横山　睦夫
☆	システムライン	綱島　勝美
☆	櫻商事	櫻田　良次
☆	辨天おがわ運輸	小川　和美
☆	春木運輸	佐藤　孝高
☆	大友運輸	藤井　練和
☆	荒木運送	荒木　邦雄
☆	田中陸運	田中　秀樹
☆	丸一物流	杉田　恵理
☆	大作輸送	福本　勝由
☆	丸武運輸	土屋　信之
☆	東京共同ロジテム	田木　景三
☆	日通東京運輸	松本　久雄
☆	商運サービス	佐久間　恒好
☆	北多摩運送	山中　晃
☆	晃和	野崎　進一
☆	武智運送店	武智　井九十
☆	三榮商會	岩井　榮三
☆	帝都運輸機工	大西　豊
☆	ＳＢＳトランスポート	鳥海　昭夫
☆	カトー物流	加藤　浩介
☆	船間産業	船間　昭二
☆	飯塚運送	飯塚　正純
☆	ハイ・ケイチク	石川　博久
☆	大森運送	三浦　徳邦
☆	松本運送	松本　勝彦
☆	成増興業	相原　光良
☆	ロジスペック	羽野　利治
☆	ひがの運送	日向野　弘治
☆	長井運送	長井　純一
☆	森田商運	山田　正信
☆	青柳運送	青柳　保之
☆	プラスパ	下川　悟
☆	京北倉庫	横峯　照久
☆	サイショウ.エクスプレス	齋藤　正雄
☆	宮本運送	宮本　隆
☆	京浜運送	吉本　花子
☆	あやめ運輸	菖蒲　亨
☆	タイヨーリクテム	山下　政博
☆	昌登物流	登坂　好男
☆	芳和輸送	山本　伸一
☆	ワーク商会	畑井田　孝文
☆	アクセス	佐賀　肇
☆	大徳運輸	相楽　俊一郎
☆	沢多運送	滝田　重治
☆	石山運送	石山　信一
☆	みすゞ興業	荒木　秀幸
☆	中央車輌輸送	松本　洋祐
☆	スワンサービス	足立　明文
☆	八武崎運送	八武崎　秀紀
☆	晴栄運送	関口　由子
☆	相互梱包運送	木原　陸也

※評価区分ごとに申請受付順に掲載　（敬称略）

「今年こそ3ツ星」の念願達成　金城運輸

3ツ星評価を喜ぶ金城取締役

東京都の長谷川明環境局長から、評価事業者を代表して評価証を授与された金城運輸（3ツ星評価）の金城利光取締役は、「これまで2年連続で2ツ星だったが、今年こそは3ツ星をと明確な目標を社内に掲げ、1年間意識して取り組んできた」と念願達成の喜びを伝えた。

金城取締役は08年にGEPへ参加し、ここで得た知識や経験がその後のグリーン経営認証の取得、環境省主催のエコドライブコンテスト（現在はエコモ財団主催）で優秀賞獲得につながり、「いまもGEPが同社の環境マネジメントの中核をなしている」と語った。

評価事業者の声

3年連続で3ツ星評価を受けた西町運送の岩邉洽子社長は、ドライバーの頑張りに感謝した。「実走行燃費をしっかり記録する体制が根づいた」。

評価の背景には、従業員がエコドライブで経費削減に真剣に取り組む気持ちが育ったことを強調した。「（GEPに取り組んで）事故がなくなったことでも、会社は世の中のためになれたと思う」とも語った。

◇

1ツ星評価の竹内運輸工業の小岩井繁行執行役員は、GEPの導入効果について「燃費の向上、事故低減に効果をあげている」と話す。

とくにエコドライブによって、小さな事故も減少しており、従業員の頑張りがしっかり利益確保に結びついていることをあげた。

小岩井執行役員は「この努力を何らかの形でアピールもしていき、ビジネスにつなげてもいきたい」と抱負を語った。

◇

東ト協の支部で最も多く評価企業を輩出されたのが、足立支部の33社。その中で1ツ星評価に認定された森田商運の山田正信社長は、プロセスの大切さを強調する。「運転者はエコドライブが効果あるのは理解するが、なぜ行うのかという動機づけが大事」と話す。

重量物の長距離輸送を行う同社では、GEPの導入で燃料コストの削減ができたことに、ドライバーが気付いてくれたという。

◇

1ツ星評価を受けたサイショウ・エクスプレスの齋藤正雄社長は、事業発展には従業員のやる気が必要だと語る。これまでもモチベーションを高めてあげる点に苦心してきた。燃費向上などの努力が、見える形で示されるGEPは、最適なツールだと強調した。

その一方で、「事業者はGEPに参加しているとの自己満足だけで終わらせないようにしなくてはならない」と自らを戒める。

ドライバーの努力を、経営者は様々な改善で報いるよう、自分も努力していきたいとの考えを示した。